

カービュー マーケットウォッチ (2009年9月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で13カ月ぶりに前年を上回る！

09年8月順位	09年7月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	21,669
2	(2)	→	フィット	ホンダ	10,927
3	(3)	→	ヴェッツ	トヨタ	8,145
4	(4)	→	インサイト	ホンダ	7,900
5	(5)	→	パッソ	トヨタ	6,238
6	(6)	→	セレナ	日産	5,190
7	(11)	↑	フリード	ホンダ	4,917
8	(8)	→	ヴォクシー	トヨタ	4,855
9	(15)	↑	デミオ	マツダ	4,744
10	(7)	↓	カローラ	トヨタ	4,655
11	(9)	↓	ノート	日産	4,616
12	(10)	↓	ウィッシュ	トヨタ	4,527
13	(12)	↓	ティーダ	日産	4,279
14	(13)	↓	キューブ	日産	3,829
15	(17)	↑	エスティマ	トヨタ	3,673
16	(14)	↓	ノア	トヨタ	3,629
17	(21)	↑	アクセラ	マツダ	3,155
18	(20)	↑	スイフト	スズキ	3,143
19	(19)	→	ヴェルファイア	トヨタ	3,136
20	(18)	↓	ラクティス	トヨタ	2,730

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で13カ月ぶりに前年を上回る！

軽自動車は依然マイナスだが、輸入車も16カ月ぶりにプラス

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した8月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体では26万3524台で、前年同月比は103.2%と13カ月ぶりに前年を上回った。今年4月から実施されたエコカー減税とスクラップ・インセンティブ効果のある新車購入補助金制度が実を結んだわけだが、商用車は前年同月比33.8%減と不振が続いており、クルマ市場全体が活性化したとは言い難いのも事実。8月はもともとクルマが売れる月ではないこともあり、来月以降もプラス基調となるのか要注目だ。

輸入車と軽自動車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は16万9170台で前年同月比108.1%（日産デュアリス輸入分含む）と、2カ月連続のプラス。メーカーごとの合計では、スバルとスズキ以外は前年を上回り、前月同様、トップ5を独占したトヨタ（1位プリウス、3位ヴィッツ、5位パッソ）とホンダ（2位フィット、4位インサイト）は113.9%、114.0%と2ケタの伸びとなっている。一方のスバルは前月、月間販売目標3000台を大きく上回る売れ行きだった「レガシィ」が1736台と伸び悩み、スズキは主力モデルの「スイフト」が3143台で前年同月比72.5%と5カ月連続で2ケタのマイナスになったのが響いた。

また軽乗用車は8万3758台で前年同月比94.0%と9カ月連続の前年割れ。ただ下落率は2カ月連続でひとケタ台となり、下げ止まり傾向が顕著となった。

15カ月連続で前年同月比のマイナスが続いていた輸入車（乗用車のみ）は、日本メーカー製を含む全体では1万602台で前年同月比100.3%と16カ月ぶりに前年を上回った。海外メーカー製のみでは1万38台で98.3%と依然としてマイナスだが、「スズキ スプラッシュ」が481台と月間販売目標500台レベルで推移していることが全体を押し上げた。海外メーカーブランド別乗用車ランキングでは、11カ月連続トップのVW（フォルクスワーゲン）をはじめ、3位BMW（MINIを除く）、4位アウディが前年を上回る伸びとなったが、2位メルセデス・ベントンは91.1%と苦戦。1~8月の前年同期比でも70.4%と状況は厳しい。メルセデスなどのプレミアムモデルがもう少し売れてくると、復調傾向も確実なものになるはずだ。

■ココも気になる！ その1

インサイトの意外（？）な健闘でホンダが好調をキープ

ハイブリッドカーとしては衝撃的な189万円という低価格が話題となった「ホンダ インサイト」だが、2モーターのストロングハイブリッド方式を採用「トヨタ プリウス」が205万円で発売されたことで、一気に売れ行きが落ちると思われた。事実、4月は1万481台で初の月間トップに輝いたが、5月にプリウスが発売されると、8183台（プリウスは1万915台）で3位に後退。6~8月はプリウスが2万2292台、2万7712台、2万1669台と2万台超の大ヒットでトップを快走するなか、8782台、1万210台、7900台と4位キープが精一杯という状況だ。

ただインサイトの生産能力が月間1万台レベルであることを考えると、大健闘ともいえる売れ行き。ハイブリッドカー人気を巻き起こした立役者（車）として、大いに評価される。ちなみにもう一方の立役者であるプリウスは新型のみならず、EXの名称で継続販売される旧型でさえ8月は1623台と月間ランキング29位相当の売れ行きを記録した。

Hondaは「フィット」が1~8月の前年同期比こそ74.2%だが、今年も月平均1万1700台と堅調で、「フリード」も月平均5500台超と好調。軽自動車を除く3/5ナンバー乗用車合計では5カ月連続で前年を上回り、13カ月ぶりに前年同月比がプラスとなったトヨタ（72.4%）や2カ月連続プラスの日産（76.8%）と比べても、前年同期比93.5%と安定した戦いを展開している。Hondaはさらに5ナンバークラスミニバンの「ステップワゴン」を10月にモデルチェンジの予定。すでにWEB上で新型ステップワゴンの先行公開をスタートさせたが、フィット、フリードに続くヒットモデルとなるか、要チェックだ。

■ココも気になる！ その2

ハイブリッド&エコカーで攻勢に出るメルセデス・ベンツ

昨年は3万7001台で、海外メーカーブランド別乗用車年間ランキングでBMW（MINI除く）に1056台の差をつけ、2位となったメルセデス・ベンツ。今年は1~8月の累計で2位につけているものの、前年同期比70.4%と落ち込み、3位BMWに606台差まで詰め寄られている。ただ、メルセデスが得意とするプレミアムクラスでこそ世界不況の影響を大きく受けているが、世界市場ではコンパクトSUVの「GLK」や新型「Eクラス」が好調に推移。前年同期比こそ81.0%だが、1~3月の売れ行きと比べると、4~6月は124.0%と大きく持ち直している。

そしてメルセデスは、輸入車としては初のハイブリッドカー「Sクラス ハイブリッド ロング」を日本市場に投入。1モーターのマイルドハイブリッド方式だが、10・15モード燃費はベースモデル比30%アップの11.2km/リッターを実現。価格は1405万円と高価だが、エコカー減税にも適合し、拡販を狙っている。

またメルセデス初の燃料電池車「Bクラス F-CELL」の市販化も発表。この燃料電池車は水素と大気中の酸素を反応させて発電を行い、電気モーターで駆動するゼロエミッション駆動システムを搭載し、約30km/リッターの燃費と2リッターガソリンエンジン車をしのぐ走行性能を両立している。メルセデスでは、このBクラス F-CELLの小規模量産を今年末にスタートさせ、来年初めよりヨーロッパおよびアメリカで約200台ほど展開するという。燃料としての水素の供給システムなどインフラ整備の問題はあるものの、メルセデスがハイブリッドカーや燃料電池車を手がける意味は大きいもの。今後の展開をじっくり見守っていきたい。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
